

脱温暖化、ごみの徹底減量 神明台のつどい・見学会へ
参加して地域交流と、処分地への理解を広げよう

神明台処分地についてより広く地域の方に処分地を知ってもらい、処分地に対する理解をより深め、地域交流ができ、楽しく過ごせるイベントもできるのが神明台のつどい・見学会だ。3月23日（土）新橋、中川地区を中心にスポーツ団体の仲間と「神明台のつどい・見学会」を開催する。

新橋、緑園、中川 3 地区のスポーツ団体と泉区体育協会にも春の活動予定に入れて「つどい」に参加してもらうよう要請した。また競技会の組み合わせ等の運営についても協力を依頼した。

新橋住みよい街づくり委員会と中川地区経営委員会が主催、泉区役所と（公財）横浜市資源循環公社が共催、岡津太鼓、資源循環局泉事務所、泉スポーツセンターが協力して 第 7 回神明台のつどい・見学会を行う。参加団体と競技、見学、参加教室は表記のとおりとなっている。神明台を知ってもらい、ごみの発生抑制とごみの減量、脱温暖化を目指し、処分地に対する理解を深め、なお地域交流と新しいスポーツを根付かせるのがつどいの目的だ。

[illegible]

今年も 小学生の かけっこ教室開催

走ることを得意にしたい、きれいに走りたい。
そんな子どもたち、集まれ。横浜隼人高校陸上部
の選手が指導のお手伝いをしてくれます。小学生
80 名が走りやすいシューズ、運動服、汗ふきタ
オル、飲物等を持って集まる。



カレーライスは 1300 皿を予定！

昨年1170食を記録した神明台のつどいの自慢のカレーライスはスポーツイベント参加の子どもたちと保護者、教室や見学会参加者全員に振舞われる予定だ。昨年は多数のお変わり組に慌てた反省から今年はライス200gたっぷり、お変わりなしの1300皿を考えている。



この国で暮らす限り、地震や災害を避けて通ることはできない

自分や家族が助かるためにはどうすればいいのか。それぞれが考えていただきたい。災害を他人事のように考えていないか？災害の危険をすぐ忘れてしまわないか？万一の災害時、他人や公の機関を当てにしすぎていないか？

災害を避けて通れないなら、わたくしたちは、家庭で、地域で、防災、減災を進めていかなければならないだろう。防災意識を高めて自助、減災を実現していかなければならない。

自分の命は、自分で守る

声掛けや見守り活動で交流し、防災、減災に関心を高め、防災用品や減災用品の備蓄を提案し、家具の横倒しを防ぎ、家族で、近隣で支え合う、防災意識の高さで交流をし、頼りがいのある消防団の力を借りて、自らの命は自ら守る、防災、減災意識のより高い中川地区の町づくりを進めていかなければならない。

防災対策には誰もが不安を抱えている。地域防災事業の充実を行政の責任として考えている区民がとても多い。行政に頼りすぎることが多く自助共助の内容が地域住民のなかに理解されておらず地域が住民への伝達不足や浸透遅延を起こしているのではないかとさえ言われてきた。いざというとき、何をすれば良いか解らないという住民が多く、自助、共助は、残念ながら言葉だけ独り歩きしている状態と言える。

区民全体の防災、減災意識は想像以上に低い。減災活動は減災防災グッズをチェックすることから始める必要があるだろう。町内会・自治会には、防災訓練と安否確認訓練の実施をお願いしている。

横浜市の防災事業は、防災施設の整備対策を中心に軽可搬ポンプ、簡易トイレ、学校・公園の仮設トイレ、下水道直結式「はまっこトイレ」の設置、受水層からの応急給水、情報受伝達機器等による防災拠点の運営や機能強化として整備され、避難所の受け入れ訓練を通して地域で行われる自治会町内会防災訓練、安否確認訓練に参加することで地域の防災力をまとめているのが現状だ。

3分30分3時間の行動指針をもつ



西が岡小学校地域防災拠点訓練実施 初めて小学校と合同で

平成30年11月17日（土）防災拠点訓練を西が岡小学校を避難所としている9自治会（西が岡一、二、三、弥生台自治会、グリーンハイムA、B、C、桂坂自治会、グレーシア弥生台自治会総勢202名、西が岡小学校全児童と教職員合わせて492名その他区役所職員、消防関係7名合計753名が参加し、実施した。

避難のための防災リュックづくりの提案

1泊のキャンプで使う物と似ている！

着替え

現金
(千円・小銭など)

筆記用具

ラップ

新聞紙

ライター

おしりふき

はし

皿

ラーメン

カード

ゲーム

マンガ

ボール

PERSONAL ID CARD
緊急カード

名前

生年月日

血液型

住所

連絡先 etc

お母さんからのメッセージ

水道がない！

安心してできるようにリュックは1人1個！

ほっ♡とするアイテムをプラス

非常持出級

中川連合町内会

発災から3日～6日間の備蓄品（防災グッズ）の提案



発災3日間の、減災グッズで備える 安全の場合は 白いタオルをかかげる

中川連合町内会防災委員会では発災から3日～6日間の備蓄品（防災グッズ）の提案をします。

非常用トイレ
カセットコンロ
ラジオ（携帯）
電池
口腔ケア用
ウェットティッシュ
身体拭き
ウェットティッシュ
新聞紙
（紙食器をつくる）
トイレ紙
サランラップ
カンテラ
ヘッドライト
クーラーBOX
ポリ袋（大中小）
など

1人1つ
〈避難用リュック〉
着替え ティッシュ
現金（小銭）
ラップ 新聞紙
ライター
赤ちゃんのおしりふき
はし 皿
筆記用具など

< 重要！ >

水・非常食は

3日分を自宅に用意！

ショックでもものが食べられない時は、水とお粥でしのげば大丈夫！

住まいが火災や倒壊の危険がない時は、敢えて長期に避難する必要はない。家具の転倒や断水、停電に備え水・簡易トイレ・カセットコンロなど非常時減災用品を確保しておくことが自助であり減災対策である。

防災事業は目的や指針をもった町の防災組織の機能強化に努めることが望ましい。繰り返し訓練を実施して、地域の防災意識を高め、防災力を養っておくことであることに疑いがない。



3月17日防犯パトロール決起集会を開く

高齢者を狙う悪質な特殊詐欺や西が岡～緑園にかけて空き巣が増えている。安全で安心して暮らせる町をめざして中川連合町内会防犯決起集会が3月17日（日）中川地区センターで250人態勢の参加者で開かれる。平成16年から始まった中川連合町内会の防犯集会は自分の街は自分で守る気概で毎年多くの町内会自治会の役員、防犯担当者、会員が参加し泉警察署生活安全課長の防犯講話を受け、町の防犯意識の重要性を高めてパトロールする運動だ。



2025 年に向けて地域で取り組んでいくこと

その2：高齢者編

1. 高齢者が安心して暮らすため行政の取組

交通網の整備『中田さちが丘線の早期開通』が急務となる。高齢化により車の運転ができず、免許返納による買い物難民や通院時の送迎等バス路線の整備拡充が急務である。

町内会館などジュニア、シニア等多くが気軽に集い、居場所・たまり場の中心となる身近な『町内会・自治会』の集会所(会館)の拡充費、維持費の援助、助成を充実させること。(準公共施設にする)

現状公共施設は遠く、岡津町内会館は手狭で、多くの人数の催し物には制限があり、稼働率も高い。広いスペースで、使い勝手を容易にし、かつ利用料金を抑えたら、身近な居場所・たまり場として、更に活動が容易になる。

地域のたまり場の支援拡大を希望したい。徘徊対策として位置検索機器の購入補助の実施を要望したい。

2. 地域が取り組むこと

・シニア世代が学校等で子どもたちに絵本の読み聞かせ、囲碁、将棋、昔の遊び(独楽回し)等を教えて世代間の交流を活発にする。

・輪投げ、ダーツなどの軽スポーツを町内会館で楽しむ「体と心の健康づくり」

・井戸端づくり

[コミュニケーションが老化の予防]



なががわの記憶① 平成最後の「ふれあいまつり」



<編集後記> 泉寿荘の開所 30 周年の記念誌「編集後記」にも町のありようについて書かせていただいた。73 年の町のありように強く魅かれた。生き物のように自在の变げに魅かれた。いろいろな人の出会いで街も人も育っていく。それは老いも若きも同じだ。肝に銘じた。遅いか。

第 20 回中川ふれあいまつり

2019 年 11 月 12 日(日)開催

<発行責任者> 中川連合町内会 小泉正彦

横浜市泉区岡津町 2085

TEL/FAX 812-1957

メールアドレス: nakagawa_rengou@yahoo.co.jp